

公開シンポジウム

〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉Vol.8

- 日時 2015年11月7日(土)午後1時開始、5時すぎ終了予定
- 場所 専修大学神田校舎5号館542教室(東京都千代田区神田神保町3-8)
- 主催 NPO法人 放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会
専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科
- 入場無料(定員100人) 参加希望者は事前にメール(info@houkon.jp)か
FAX(03-5379-5510)で申し込んでください。
締め切り11月4日(水) 但し、定員になり次第締め切らせていただきます。

今年で第52回を数えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、NHK広島放送局の『里山資本主義』の提言と報道活動などが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉を開催してきました。受賞作のダイジェスト版を上映するとともに、その報道活動に携わった制作者をゲストとして招き、報道活動部門の選奨委員らとトークを繰り広げます。今回は「制作者の執念と、組織の力」というテーマを設定し、第52回ギャラクシー賞報道活動部門の受賞作3作を取り上げます。

大賞受賞作は瀬戸内海放送(高松市)の『高知白バイ衝突死』を巡る検証報道です。2006年、高知県でスクールバスと白バイが衝突し、白バイ隊員が死亡した事故で、元バス運転手の有罪が確定しました。しかし、一連の調査報道で警察による証拠捏造疑惑が浮上しています。冤罪の確信を深める記者の執念と綿密な長期取材には圧倒されます。

三重テレビ放送の「ハンセン病に対する差別解消に向けた報道」(優秀賞受賞)は、国家賠償請求訴訟で熊本地裁判決が出た2001年から、三重県出身者が各地の療養所に隔離された経緯などを掘り下げ、5本のドキュメンタリーを作りました。出版化も評価を高めました。NHKの東日本大震災プロジェクト「明日へ—支えあおう—復興サポート」(選奨受賞)は、各分野の専門家を被災地に招き、行政や住民、支援者らと話し合う場を設けて、復興の道筋を探る月1回のシリーズです。東京と地域放送局の連携が具体的な成果をあげています。制作者、研究者、一般市民、学生を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

◇ゲスト

瀬戸内海放送 報道制作ユニット グループリーダー 山下洋平

三重テレビ放送 報道制作局長 小川秀幸

NHK制作局 エグゼクティブ・プロデューサー 棚谷克巳

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

〈問い合わせ〉

■放送批評懇談会 電話 03-5379-5521(平日午前10時~午後1時、午後2時~6時)